

「飼うことの責任」とは

三年 池田早穂

私が犬の名前を呼ぶと、すぐ振り返りしっぽを振りながら走ってきてくれる。飼い始めたのは、七年前の十一月のことだ。母が、ペットショップで見て、家族で話し合い、飼うことになった。今となっても、家族の中の大切な存在だ。

ある日、私はニュースを見た。その内容は、犬や猫のマイクロチップ義務化についてだ。また、既に飼育している場合は、努力義務だということだ。私はこのことを知って、なぜ義務化になったのか疑問に思った。そして、調べてみると、迷子になった際や災害で離れ離れになった際に飼い主を見つけやすくするためだということがわかった。しかし、もう一つの理由として、安易な遺棄防止のためでもあるそう。遺棄をする人がいるということに衝撃を受けた。

私は、遺棄をする人が、どうすれば減るのか考えた。それは、「責任を持つこと」だと思う。最初は、一目ぼれや、飼ってみたいというその場だけの気持ちで飼う人もいると思う。しかし、実際、家にくると、毎日の散歩、トリミング代、ご飯代などたくさん負担がかかる。また、犬だけでなく自分が病気にかかり入院してしまったなど、あずける先なくなる場合も十分あり得る。そんなことを考えていたら、

動物を飼いたいという人などいなくてもいいかもしれない。しかし、遺棄された動物の全員が新しい引き取り手に譲渡される訳ではない。殺処分されてしまうことがあるのも現状だ。「動物を飼う」ということは、「その動物をずっと支える」ということなのではないのだろうか。そんな意識をしっかりと持つことで、遺棄をする人が減っていくと思う。

また、そんな人間の都合によって、保護施設に行った動物は、ずっと飼い主のことを待ち続けているのではないか。ペットホテルのようにいつか飼い主が戻ってきてくれると信じているのだと思う。動物たちの気持ちを考えると心が痛む。

私が、動物たちを直接保護したり、人々に伝えるということは難しいことだと思う。その中でも、動物たちの現状をまず自分が調べ、知ることから始めていくことが大切だ。そんな人が増えていくことで、「責任を持つ」ということの重要性、大変さが世界へと広がっていくのだろう。今、私はできることが少ないが、将来は動物愛護のボランティア活動に参加して、幸せな動物を増やしたい。また、飼っている犬を大切に最後まで育てていくという「責任」を持つていたい。